

かまくらっ子の意識と実態調査 第12集 ダイジェスト版

『児童生徒の“今”から見える3つのサイン』

— 実態調査データから考える —

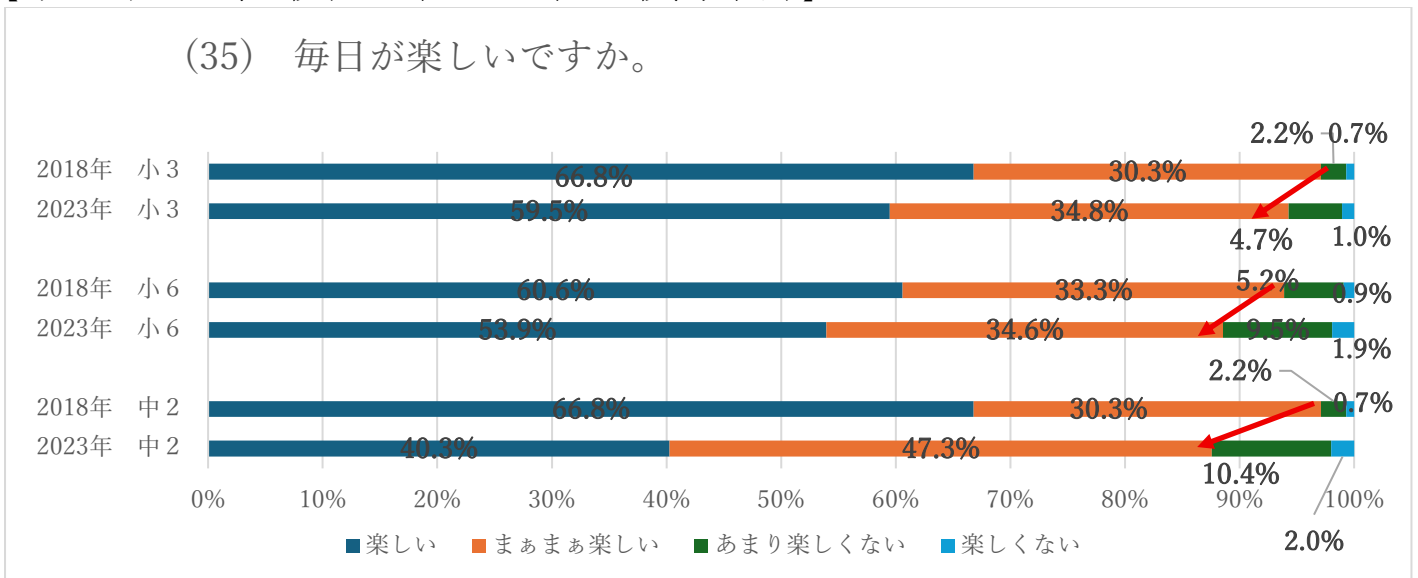
1. はじめに

このダイジェストは、2023年に行われた「かまくらっ子の意識と実態調査」と前回の児童生徒の実態調査データをもとに、「親」「生活」「学習」「地域」の4テーマに分け、変化を分かりやすくまとめたものです。数値の変化だけでなく、「この結果から、私たちは何を考え、どう関わられるのか」を、「学校・子ども・保護者」それぞれの立場で考えるきっかけにさせていただくことを目的としています。

2. 児童生徒の“今”

① 毎日の「楽しさ」を感じる子どもは減っています

【毎日が楽しいか、比較(2018年と2023年の比較、学年別)】



データから分かること

「毎日が楽しい」「まあまあ楽しい」と答えた割合は、小3で約3%減、小6で約5%減、中2で10%減少しています。

見えてくること

○楽しさの理由・楽しさを感じられない理由のどちらにも、「友だち関係」や「学校・クラスの居心地」が強く影響しています。(本編データ記載)

○学校は、子どもが一日の中で最も長く過ごす場所であり、日々の気持ちを大きく左右しています。

ひとことメッセージ

- * 先生方へ: 学級・学年・学校の雰囲気づくりは、学びの土台です。
- * 子どもたちへ: 一人で抱え込まず、話していい場所はたくさんあります。
- * 保護者の方へ: 家庭での会話が、子どもの気持ちを支える力になります。

② 生活習慣は「読む」から「使う」へ変化しています

(20)読書時間 一週間平均

	2018年度	2023年度
小3	約 70.2 分	約 55.5 分
小6	約 77.2 分	約 55.4 分
中2	約 78.0 分	約 47.3 分

※「4時間より多い」は 300 分としてカウント

(28)スマホ等タブレット端末使用時間 一日平均

	2018年度	2023年度
小3	約 60.3 分	約 72.4 分
小6	約 93.1 分	約 136.9 分
中2	約 139.6 分	約 184.8 分

※「4時間より多い」は 300 分としてカウント

(28)スマホ等タブレット端末使用時間 一週間平均

	2018年度	2023年度
小3	約 422.1 分	約 506.8 分
小6	約 651.7 分	約 958.3 分
中2	約 977.2 分	約 1293.6 分

※「4時間より多い」は 300 分としてカウント



データから分かること

- 読書時間は「週 20 分ちかく減少」しています。
- スマホ・タブレットなど ICT 機器の使用時間は、「1 日あたり 100 分以上増加」しています。

見えてくること

- 子どもの問題というより、「環境の変化が生活リズムを大きく変えている」と考えられます。
- 「禁止」ではなく、「どう使うか」「何と置き換えるか」が重要です。
- 読書をしない子ほど、スマホやタブレット端末の使用時間が長い傾向が見られます。(本編データ記載)

ひとことメッセージ

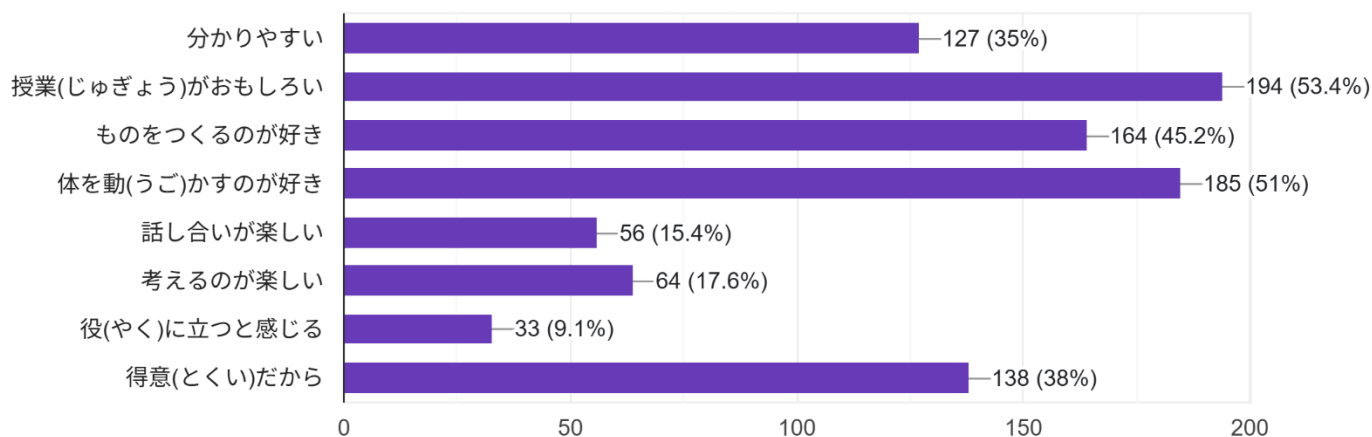
- * 🏠 先生方へ: 学校での読書や対話の時間が、大きな意味を持ちます。
- * 👧 子どもたちへ: 端末の使い方を選ぶ力は、これからの自分を守ります。
- * 👨‍👩‍👧 保護者の方へ: 短時間でも一緒に本を読む時間が良いきっかけになります。

③ 学びの中には、前向きな変化も見えています

(「(40)好きな授業はどれですか。」に続く質問) (2023年 小3、小6、中2)

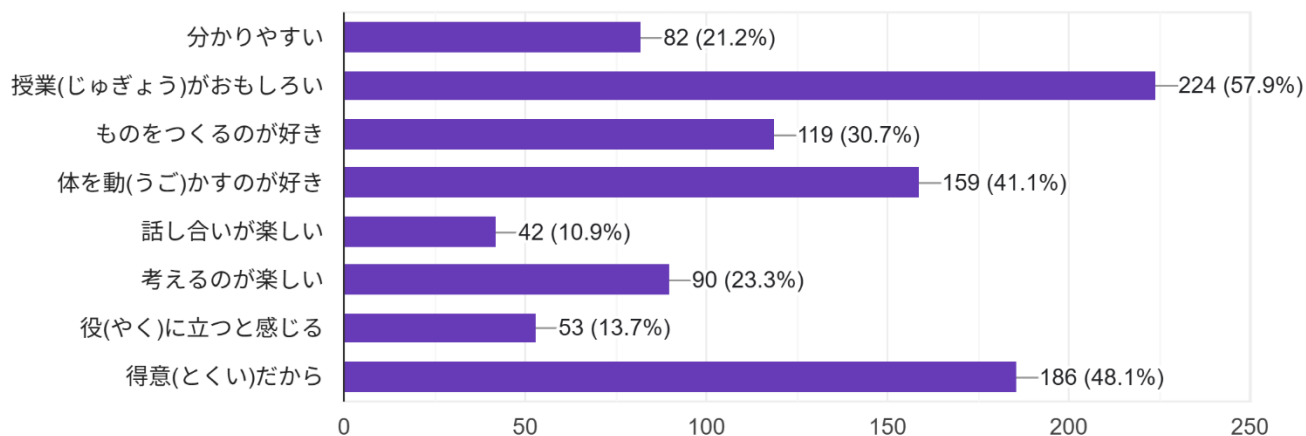
(41) 好きな理由(りゆう)は何ですか。(小3)

363件の回答



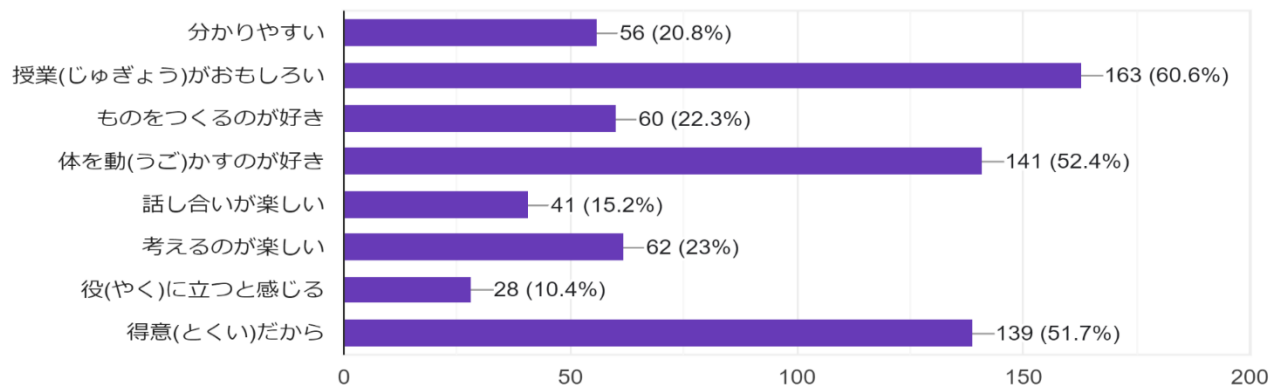
(41) 好きな理由(りゆう)は何ですか。(小6)

387件の回答



(41) 好きな理由(りゆう)は何ですか。(中2)

269件の回答



データから分かること




○児童生徒が各教科で面白いと感じる理由として最も多いのは、「授業がおもしろい」です。

見えてくること

○教科そのものより、授業のつくり方(単元の工夫、教材教具の活用、児童生徒の授業内での活動量や活動の質など)や雰囲気(教師の発問やファシリテート、しかけ、場づくり、学級経営など)が子どもの意欲を左右しています。(本編データ記載)

○「楽しく、分かる」授業は、自己肯定感の育成にもつながります。

ひとことメッセージ

- * 先生方へ:授業は、子どもの可能性を広げる場です。
- * 子どもたちへ:分かる楽しさは、学ぶ力になります。
- * 保護者の方へ:学びを肯定的に語る言葉が、意欲を高めます。

3. まとめ「3つのデータから見えること」

①から、

子どもは、日常の中で楽しさを感じるものが減少しています。

②から、

生活環境は大きく変化しています。「読書減→端末増」「家の手伝い→習い事」など本編データ記載)

③から、

それでも、学校や大人の関わり次第で前向きな変化は起こせます。

この結果を、ぜひ学校やご家庭で話題にしてみてください。

「今、子どもたちはどう感じているのか」

「私たちにできることは何か」

を一緒に考えることが、次の一歩につながります。

※ 本ダイジェストは、実態調査データの一部を抜粋して作成しています。

※ 詳細な数値・分析は、『かまくらっ子の意識と実態調査 第12集』

(<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kyouikuc/kamakurakko10.html>)をご覧ください。



(小学校教員作成)